

私たちは子どもたちの 自然体験活動を応援しています

国立妙高青少年自然の家では、以下の方々から自然の家の活動に対し、多大なご寄付をいただきました。

なお、ご寄付をいただいた場合は、サービス棟玄関ホールやホームページによりご報告させていただいております。

協賛金・支援金を、随時受付しておりますのでご支援ください。

●協賛金・支援金（五十音順）

アパリゾート妙高パインバレー、(株)有沢製作所、(有)内田紙店、NPO 法人エコネット上越、NPO 法人木と遊ぶ研究所、NPO 法人 TAOO 妙高自然学校、(株)大谷ビジネス、大塚製薬(株)、岡本石油、頸南森林組合、頸南バス(株)、(株)謙信堂、(社)国土緑化推進機構、高坂防災(株)、(財)笹川スポーツ財団、信越ペプシコーラ販売(株)上越支店、新星建機工業(株)、新東産業(株)、関山生産森林組合、(株)第一印刷所上越支店、(株)タカサワ、(株)高館組、田中産業(株)、(有)デザインルームプラム、(株)桐朋、東北電力(株)上越営業所、新潟トヨタ自動車(株)、(有)永田印刷、(株)ニッコクトラスト、(株)パーツプロダクション、長谷川興業(株)、(株)ピクセン、ホシザキ北信越(株)、松下電器産業(株)半導体社新井工場、(株)丸山酒造場、三国コカ・コーラボトリング(株)上越支店、妙高観光開発(株)妙高カントリークラブ、みらい建設工業(株)上越営業所、(株)ムラヨシ、(有)ヤカタ建設、(財)雪だるま財団、(株)横瀬オーディオ、(株)渡辺リネン

●助成金

調査研究事業

非日常の体験活動が子どもの脳活動と「生きる力」に及ぼす影響に関する調査研究へ
(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団



子どもたちに もっと自然体験をさせたい

国立妙高青少年自然の家の所長室に掲げられているポスターのメッセージ。自然の家設立当時に、多くの子どもたちに利用していただくため、PR用に作成したものと。5月頃だと思いが、妙高山から自然の家までが写っている。空は青く、妙高山山頂付近にうっすらと白い雲、山頂から8合目までに残雪。その下には濃淡鮮やかに緑色が残っている。眩しい。誰もいないスキー場。大田切川も見える。自然の家の建物付近を見ると、スバルホール建築のため敷地を整備する黄色のブルドーザーがある。芝桜のピンクが愛らしい。

このポスターに写っている場所が活動範囲となっている。今日も子どもたちが元気に飛び回り、森の中に入っていく。そして新しい発見をしてみよう、少しずつ大人になっていくのだろう。

平成18年度の延利用者数は、127,632人で、全国に14ある国立青少年自然の家のうちの第2位であり、今年度も10月末現在、昨年度のこの時期と比べると若干上回っている。これも、妙高市、関山生産森林組合はじめ地域住民の皆様の御支援の賜物と感謝している。

今年の初夏、「仲間作りの森」で妙高アドベンチャーの活動をしている中学1年生の女子生徒が泣いていたのを見た。怪我でもして痛くて泣いているのだろうかとしばらく立ち止まっていると、その子が「今まで学校でみんなにみんなで協力したことはなかった。みんなを助けてあげた。うれしい、うれしい。」と泣きながら話した。自然の中でのきめ細やかな活動プログラムと立派な指導者、これが自然の家の「力」だ。

自然の家では、常日頃から、子どもたちの活動を支えるために、「安全と健康」を最優先とした事業運営を心がけている。今年「中越沖地震」があったが子どもたちに大きな怪我や、そして病気などなかった。今日もまた妙高山が子どもたちを見守っている。「子どもたちにもっと自然体験をさせたい」のあとに、次の言葉が続いている。

子どもたちは
日の出の美しさに感動し
雪の深さに驚き
友だちとの語らいに
心をときめかせます



平成19年11月
所長 三上 智